

議員行政視察報告 ②

2月1日(水)～2日(木)

参加議員 大館秀孝・鈴木眞徳・齋藤永・小澤啓司・利根川茂・飯田一・中野博・南雲まさ子・井上栄一・田代実・平野由里子

ふるさと納税は

15億円余り!

茨城県境町は、県西部の平野部に位置している。人口2万5400人、平成28年度一般会計歳出予算は91億2300万円円で、人口と予算は、当町の約2倍の規模である。

この境町では、ふるさと納税(平成28年12月現在7万1237件、15億5356万円)を財源に小中学生の給食費半額補



町長の熱心な説明を受ける

助や赤ちゃんクーポン券事業、20歳までの医療費無料化などの新たな支援策を実施して、毎年250人程減少していた人口を、平成28年11月末には

18人増加というV字回復を実現している。

特筆すべきことは、町の特産品である牛肉や米などの地域資源を返礼品として活用して、地場産業を育成することに重点を置いていることであった。

境町長は「ふるさと納税という制度がいつ中止になるかわからないので、町の特産品のリピーターをつくることだ!」という信念に基づいていた。

松田町でも若年層の人口増と地場産業振興のために、積極的に取り組むべき事業と感じた視察であった。

(記・田代実)

小砂(いさご)地区

「日本で最も美しい村」

栃木県那珂川町は、人口1万8千人、平成17年に二町が合併して生まれた農業を主産業とした「町」である。

この小砂地区は、人口8百人余りの山間にある

集落で、年々少子化と高齢化が進む地区であるがこのままでは、山林・農地が荒れ、有害鳥獣の棲家になるの思いから、昭和63年から誰の呼びかけでもなく、集落の生活道路の整備・清掃から活動が始まった。

今では「小砂地区コミュニティ推進協議会」を中心に①棚田オーナークラブ、②農家民泊、③母ちゃんカフェ、④小砂探検ウオーク・ラリー、⑤陶器まつり実施販売、⑥野焼きまつり、⑦菊炭製作、杉の木立の彫刻等活動が大幅に広がっている。また、フランスを発祥の地とする「美しい村」に日本で50番目に登録された。

今後は、都市部からの入込客を増すため、小砂



推進協議会の説明を受ける

住民が総参加し、①清掃活動、②案内板設置、③クリーン・パトロール、④花木の植栽、⑤景観との調和を実施していく。これらの活動は、無償ではなく、いくらかの報酬を「会」から払っている。無償のボランティアは、続かないとの説明が特に印象に残った。

(記・利根川茂)

温泉トラフグで過疎化の町を元気に

栃木県那珂川町の温泉トラフグの養殖場は、過疎に悩む同町の、町おこしのために、野口勝明氏が温泉の源泉に含まれる塩分で、海水魚のトラフグの養殖を考えられた。トラフグは市場価格が高く、丈夫で養殖がしやすいという理由からだった。

既存の施設を利用したことによる設備投資と、成長が早いことによる飼料代の抑制により高い採算性を得られている。

温泉トラフグ養殖場



当初の冷ややかな周囲の目にも屈せず、現在は栃木県全域と東京都のホテルや旅館・レストランに出荷している。味は天然トラフグよりも甘みがあり、美味しいと高評価を得られている。他の温泉地からの養殖に関する問い合わせも多い。

固定概念にとらわれず、海のない栃木県で、海水魚のトラフグの養殖を成功させた那珂川町に、学んで行く必要があると思う。

現地には、愛くるしいトラフグの像があった。単なるオブジェではなく、トラフグの慰霊塔だった。町おこしに貢献したトラフグに対する深い感謝と愛情が感じられた。

(記・南雲まさ子)

